

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
<p>加藤 健太 先生</p>	<p>おすすめメッセージ</p>
<p>① 図書名：安楽死が合法の国で起きていること</p> <hr/> <p>著者：児玉真美</p> <p>出版社：ちくま新書 ISBN：4480075771</p>	<p>ぜんぜん知らなかった。スイスやオランダ、ベルギー、カナダなどで書名の「安楽死が合法の国で起きていること」。</p> <p>著者はそれを「すべり坂」と表現する。ひとの命に係わる法律だから、他に選択肢がくなくような、＜本当＞に必要とするひとに限定して認められるべきと思われる安楽死。</p> <p>しかし、現実はそうなっていない。社会保障費や医療費などの増加により財政状態の苦しい国ではとくに、あたかも坂を滑り落ちるように適用範囲が広がっている。その基準は、社会にとって役に立つひとか否か。もし、安楽死という選択肢を与えられたとき、そうした基準の危うさは容易に想像できる。</p> <p>生きるとは何か、を考える一冊である。ぜひ読んでほしい。</p>
<p>② 図書名：ユニクロ</p> <hr/> <p>著者：杉本貴司</p> <p>出版社：日本経済新聞出版 ISBN：9784296001866</p>	<p>「戦後日本経営史」という講義で取り上げるユニクロ。ぼくは、まあまあ詳しいほうだと思っていたけど、まだまだ知らないことがいっぱいあった。</p> <p>本書の最大の特徴は、ユニクロの成長の軌跡を柳井正だけの物語として描かなかった点にある。言い換えれば、とくに後半は、「世界一」を目標にかかげたファーストリテイリングが、澤田貴司や玉塚元一といったトップマネジメントだけでなく、現場の中間管理職の苦闘によって難局を乗り越えてきたことを明らかにした点こそが、本書の最大の魅力なのである。</p> <p>多くの失敗を重ねながら、なぜファーストリテイリングがグローバル企業へと飛躍できたのか。本書を読むと、その理由の一端を知ることができる。</p> <p>めっちゃオモシロいので、ぜひ手に取ってほしい!(^_^)!</p>
<p>③ 図書名：K-POP 現代史—韓国大衆音楽の誕生から BTS まで—</p> <hr/> <p>著者：山本浄邦</p> <p>出版社：ちくま新書 ISBN：9784480075475</p>	<p>本書は、植民地時代を経て第二次世界大戦後に韓国が、日本と米国の音楽を受容しながら、独自のK-POPを生み出し、進化させて世界へと発信していくプロセスを追跡したK-POPの通史である。</p> <p>著者はその中で、軍事独裁政権やコンテンツ産業の振興、急速なITインフラの整備といった韓国の政治・行政・経済社会の変容、韓日関係や韓中関係にも言及しており、音楽を取り巻く社会的な背景を理解することもできる。</p> <p>ぼく的には、この本が、K-POP「第一世代」のS.E.S.やFin.K.L.からBoa、「第二世代」の少女時代、「第三世代」のTWICE、NiziU、「第四世代」のIVEまでカバーしてくれた点を高く評価したい。たのしすぎっ(^_^)♪</p>